

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700714		
法人名	有限会社 花咲		
事業所名	グループホーム花咲		
所在地	岐阜県高山市国府町糠塚21番地		
自己評価作成日	平成24年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成24年9月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1協力医療機関においては常に相談できる体制が取れており利用者の体調の変化にはその都度対応していただいている。又薬の管理(医院への注文や引取まで)をほぼ全員分しています。2ホームの暖房は床暖房を利用し夜間も安心して暖かい部屋で就寝する事が出来る。3学習は利用者さんの楽しみでコミュニケーションをとりながら行っている。4毎月温泉に出かけています。5四季を感じる事が出来る様花や木をたくさん植えています。6利用者さんが衣類の手洗いが出来る様に洗濯場を設けています。7室内犬が2匹おり利用者さんの癒しとなっている。8居室には本人の身体状態に合わせてそれぞれに手すりを設置している。9利用者さんの訴え事にはどんな小さな事でも後回しにせず常に耳を傾ける様心がけている。10地域の音楽ボランティアの方に来て頂き音楽を楽しんでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山間の中腹に位置し、居間からは四季折々の風景が眼下に一望できる。気候の良い日には窓から陽が射し込み、さらに開け放たれた室内を風が通り抜け心地よい環境となっている。この事業所では自前のマイクロバスを利用し、月2~3回温泉に、季節毎に花見や果物狩りに、また地域の行事にと、様々な外出を支援している。日頃より家族の面会が多く、職員と顔を合わせ話す機会も多い。利用者本位の支援を基に関係者の思いが一致しており、家族からの信頼も厚い。災害対策にも力を入れている。夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、結果をフィードバックして”もしもの時”の準備に活かしている。また災害時の地域の協力体制や備蓄も適切に整備されている。開設して6年が過ぎ、近隣の方とは日常的な付き合いがあり、地域に受け入れられ、地域に根ざした事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの方針や理念については全員が共有出来る様に話し合いをし、それに基づいた個々への対応を心がけている。	管理者は職員が参加するミーティングや日頃の現場で、利用者一人ひとりの具体的なケアを通してホーム理念を確認している。職員は理念を基に、五感を大切にケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人達はとても親切で畑でとれた野菜や花などを分けてもらったりして日常的な付き合いができています。又祭りには獅子などを披露していただいている。	地域の回覧板でホーム便りを回してもらったり、廃品回収の協力、周辺の散歩などでホームや利用者を理解してもらい、自然な付き合いが続いている。また看護学生の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの出来事を載せたニュースを定期的に発行し町内に回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の家族や市の職員を交えホームの活動状況や市からの報告や意見などについて話し、実際のホームの運営の参考にしている。	会議メンバーは、市職員、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族等で構成されている。外部評価についてその内容とともに調査結果を報告し、課題を含めホームの現状を理解してもらおう機会を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議以外にも毎月市役所で連絡協議会が開催され参加している。	市職員が推進会議に毎回出席しており、ホームの状況や利用者の様子は把握してもらっている。毎月グループホーム連絡協議会にも出向き、課題を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が認識し身体拘束のないケアを実践している。	身体拘束は一切行わない方針であり、全職員が理解しこれまで行ったことはない。玄関は鍵をかけず、職員が利用者をさり気なく見守っている。帰宅、外出願望の強い方については全職員がその状況を共有し、特に注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内だけでなく利用者の自宅においても体の様子に変化がないか注意を払うように話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていないが、利用者個々において自立できる方には関係機関と相談し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族との話し合いの場を設け、重要事項説明書や契約書を十分に説明し、疑問点をたずねる事が出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中から利用者の気持ちをくみ取りホームの運営に反映出来るようにしている、利用者の意見は日常的に聞けるようにし、家族にも定期的に連絡を取り意見を聞けるようにしている。	日頃より家族の面会が多く、職員と顔を合わせ話す機会も多い。利用者本位の支援を基に関係者の思いが一致しており、家族からの信頼が厚い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの場で職員の意見や提案を聞く機会を設けて、利用者への対応だけでなくホームの運営についても話し合いをしている。	毎日の申し送りやミーティングで、様々な課題について職員で検討している。また管理者はホーム全体のケアの質の向上を願っており、職員からの質問や意見にも丁寧に対応するなど、職員教育にも前向きである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算金で能力に応じて手当を支給できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修を受ける機会を確保している、また利用者個々への対応については働きながら学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの情報交換や運営方法、実際の取り組みなどについて話す機会を設け、参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事、求めている事等入居者同士の会話の中から聞き出したり、本人自身から訴えない時は一人ひとりの特徴を理解しコミュニケーションをとりながら聴く機会をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問、電話時などの際、入居者の暮らしぶりや様子などを話し、その中で家族の思いを聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、グループホームに適した入居者対象であるか十分に検討し、生活歴、対人関係、本人、家族の希望を聞き対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として花、山菜、裁縫などを教えてもらったり、戦時中の話などを教えてもらっている。学習からも自然の形で一緒に学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の「出来る事、出来そうな事」を伝えていきホームでの活動に参加できる様、機会を作る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人の日常生活の会話の中から行きたい所を把握し、家族と相談している。	利用者の近所の方が訪ねてきたり、遠方の親類が面会に来ることも多い。また毎週温泉に出かけており、そのスタッフだけでなく常連客とも顔なじみである。利用者が行きつけの美容院には、送り迎えしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合いや気持ちの支え合いがある。日中はホールで語らい、くつろいで良い関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去した後も状態が心配な利用者の相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの過去の経験、希望や趣味、特技を生かすことができるよう検討している。	一人ひとりの介護日記には本人の行動だけでなく何気ない一言が多く書き留められ、そこから見えてくる思いを把握している。共に暮らしていく中で、職員は利用者の些細な変化をその様子からも汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの状態、生活歴、求めている事を把握しアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態の変化を具体的に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の状態や対応について家族と話し合いをし、今までの生活を考慮しながら作成している。	利用者それぞれの課題について、日々の暮らしを反映した支援を考えプランを作成している。また利用者の状態が変化した時にはかかりつけ医や家族と相談し、本人主体で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子やケアの実践気づきなど個別に記録記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が困難な要望に対しては出来る限り支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、保育園、消防署、サークルなどに来ていただき交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の垣内医院に緊急時の対応や往診をお願いしている。	利用者や家族と話し合い、納得の上でホーム協力医をかかりつけ医にしてもらっている。歯科は訪問診療受診の体制がとられている。利用者の状態は家族の訪問時や電話にて詳しく報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんや家族と相談の上、専門の治療以外は全員に垣内医院に通院していただいているので、日常の変化を看護職員と気軽に相談し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関へは入院できないため、協力医療機関から入院先を紹介して頂ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用される際、重度化した場合や終末期のあり方については説明している。又より良く暮らしていける為に職員間での見極めをし、協力医療機関と共に今後の変化に備え検討や準備を行っている。	現在は、長期医療ケアが必要になった場合、入居継続は難しいと考えている。しかし状態が悪くなっていく利用者について、本人、家族の意向、そして側で寄り添ってきた職員の熱い思いもあり、穏やかにホームで終末期を過ごしていただけないか検討を重ねている。	協力医、ケア関係者、職員などと話し合いを重ね事業所としての今後の方針を見直し、利用者や家族のニーズをくみ取りながら体制を整えられることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応など見やすくホーム内に掲示している。又消防署より救急救命講習に来て頂き職員と利用者さんが一緒に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、近所の方にも協力いただけるよう体制を整えています。夜間を想定し一人に対応出来るよう訓練も行っている。	近隣住民に協力を得て、夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。結果は書面にて整備され、フィードバックし次回の訓練につなげている。備蓄品も食料、簡易トイレ等、適切に準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者間同士のプライバシーを損ねるような言動があるときはその都度根気よく対応している。	‘できることはやっていただく’を基本に、誇りを尊重した支援を行っている。新聞を読む順番、洗面所を使う順番など、さり気ない対応にて配慮している。本人の思いを大切に、自己決定しやすい言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な形での場面づくり環境づくりをし「出来そうな事、出来る事」は手や口を出さず見守ったり一緒に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望むことを出来る限り叶え見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最寄の美容院の方に来て頂いたり、連れて行っていただいたりしてカットやパーマ、カラーを行っている。又日常的に身だしなみに気を配れるように鏡を多めに取り付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい場になる様季節の野菜の話をしたり決してせかず事なく入居者のペースに合わせている。一緒に準備食事片付けをし、サポートしている。	昼・夕食の材料は食材サービスを利用し調理しているが、朝食は近所から頂いた野菜などを使いホームで用意している。食後の片付けやおやつ作り等、出来る範囲で食事への関心につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取カロリーや水分量、栄養バランスを1日全体を通して把握している。行事に合った食事の提供や、個々に水分補給出来る様支援している。夏場は夜間も熱中症が心配なので水分補給するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯の手入れの声かけや介助をし記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導、介助や確認、失禁の対応は不安やプライバシーに配慮を行っている。	一人ひとりの排泄感覚を大切にし、本人の意思やあるいは会話から直接反応をみて声かけている。管理者は利用者自身の感覚が生きる意欲や自信につながると考え、本人の誇りも尊重しながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を必ずし野菜を多く取っている、又毎日の体操や起床時の水分補給など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ不安のない様に入浴時は声かけをし、見守り介助している。	入浴は週2回としている。棟続きのサービスでは車いすでのシャワー浴も可能である。月2～3回程度全員で温泉へ出かけ、入浴後はマッサージ機にかかるなど管理者や職員の見守りのなか入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜眠れない入居者には1日の生活リズムをつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し医師の指示通り服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で一人ひとりの力を活かした役割を自然な形で行っている。学習はレクレーションの一環としており楽しみ事となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月定期的に外出している。温泉には毎月2～3回程度出かけ、また季節に応じて花見や果物狩り、展示物の観賞や地域の催し物への参加などをし、外出支援に努めている。	温泉へ出かけ昼食をレストランで頂くなど、外出は五感の刺激が得られるチャンスととらえている。地域の行事にも積極的に参加しており、利用者への理解・啓蒙活動にもつながっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの力量に応じて金銭管理をしている、又施設である程度金銭を預らせていただき必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日常的に利用できる様使える場所に設置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れる様に建物内のリフォームをしました。窓から眺める景色は山や田園、雪景色、川の音など自然を通して季節を感じる事が出来る。また季節に応じた飾り付けをし施設内でも四季を感じていただいています。	ホーム全体が清潔感に包まれている。居間からは四季折々の風景が眼下に広がり、ゆったりとした安心感がある。居室に続く廊下には両側に手すりが設置され、身体機能を維持し自力での歩行支援につなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で景色を眺めたり、洗濯用の手洗い場、又建物の周りには花壇や緑があり入居者が楽しんだり自然と触れ合う場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には自宅で使用していたなじみの物がおいてある。	思い思いの物とともに家族写真や、代表者が撮影した外出時の写真が飾られ、安心感のある居室となっている。ベッドや布団も各々生活し易い位置に置かれ、さらに手すりが設置されるなど、安全に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、通路には物をおかず安全に歩行出来るようになっている。また居室には本人の状態に応じて手すりなどを設置している。		